

杉ムク材の抗ウイルス性確認！2時間で99.9%不活化

自然素材型住宅を手掛ける工務店が参加する（協）木の家の健康を研究する会は、インフルエンザA型ウイルスを用いて杉材の抗ウイルス性に関する実験を行い、杉ムク材がインフルエンザA型ウイルスの感染力を99.9%以上低下させることが確認できたと発表した。

杉は従来、黄色ブドウ球菌の抗菌作用があることは実証されていたが、今回、九州大学農学研究員・清水准教授の研究によりインフルエンザA型で抗ウイルス作用が実証された。インフルエンザウイルスは新型コロナウイルスと同様にエンベロープ(細胞膜)を持っている為、新型コロナウイルスにも効果が期待できるという。

実験では杉のムク板(自然乾燥材と高温乾燥材)と合板に樹脂シートを張った化粧合板にウイルス液を滴下し、2時間後に回収したウイルス液の感染力を調べた結果、杉ムク材(無塗装、プレーナー仕上)に滴下したウイルスは感染価(2時間後の活性ウイルスの数)が3桁以上低下した。合板のウイルス感染価の低下は1桁にとどまった。化粧合板については、最近抗ウイルス性をうたう製品が発売されてきたが、今回の実験で使ったものは従来のタイプだという。

清水准教授は「今回の結果は杉の調湿性と芳香が関係しているのではないかと述べ、杉ムク材の材質の効果である可能性を示した。

昨年4月、香港大学が木、布、ガラス、紙幣、ステンレス、プラスチック等の素材で同様の実験を行い、木材や、布は金属等と比べウイルスの生存期間が短かったことを発表した。但し、木材の樹種については明らかにしていなかった。

九州大学では今後、新型コロナウイルスを使い同様の実験を行い、結果を公表するという。同組合では香り成分や調湿性、抗菌、認知症抑制、睡眠、集中力など、杉を内装に使った様々な実験データをまとめた冊子「健康に良い自然素材の家」に今回のデータを追加・改定する予定。

【情報】

国産杉KDが品薄、R・Wウッド集成材は高騰！

住宅着工が減り、需要低迷が続いていますが、ここに来て米松KDや集成材が品薄・高騰している。現地の供給縮小、製品高に加え、円安による輸入コストの影響が大きい。代替としての国産材への注目度は増えているが、長引く不況から、国産KD材も品薄で納期が読めない状況で、強気傾向にある。需要が追い付かず、今の所コストアップにはなっていないが、原木も強含みとなり、グリーン材・KD材・集成材のコスト上昇が懸念されます。具体的な物件には早目の手配をお願いします。

【定休日】

4月は3, 4, 10, 11, 17, 18, 24, 25日

5月は2, 3, 4, 5, 9, 16, 22, 23, 30日となります

宜しくお願いします



仏像切り絵